

ふるさとのいのちをつなぐ こうちプラン

—— 生物多様性こうち戦略 ——

【2024 改定版】

<計画期間：2024 年度～2033 年度>



2024 年 7 月

高知県

はじめに

「生物多様性こうち戦略」が 2014 年に策定されてから 10 年が経過しようとしています。当時、2024 年までに達成すべき短期目標として「生物多様性の損失を止めるために、生物多様性に配慮した活動や利活用が定着しつつある社会」を掲げました。今年その 2024 年になりましたが、今回の改定のために実施したアンケート結果を見ると、生物多様性を保全することが重要であると認識している人はかなり増加したものの、具体的にどのように行動すればよいかわからないと回答した人が多数を占めています。生物多様性を保全することの重要性が認識されてきた一方で、それが具体的な行動に結びついていないのは、多くの県民が自然とかけ離れた生活をするようになり、自然の劣化に対する感受性が乏しくなってしまったことが背景にあります。前回の改定を行った 2019 年のアンケートでも同様の結果が得られており、改定後の 5 年間でほとんど改善されていないことがわかります。加えて、高知県の生物多様性に関わる指標の動向と評価を見ると、多くが悪化したとあり、良好に推移した、改善したと評価された指標は僅かです。

日本全国を見渡してみても同様の状況で、今まで通りのシナリオでは持続可能な社会の実現は達成できないと予測されています。そこで、2023 年 3 月に策定された「生物多様性国家戦略 2023-2030」において、「ネイチャーポジティブ」という新たな考え方が定められました。ネイチャーポジティブは“自然再興”と訳され、2030 年までに自然を回復軌道に乗せるために、生物多様性の損失を止めて反転させようとする考え方です。それを達成するための目標の一つが“30by30”で、2030 年までに陸と海のそれぞれにおいて 30% 以上を健全な生態系として効果的に保全することを目指しています。そのためには既に国立公園、国定公園、県立自然公園などに指定されている保護地域以外で、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を、自然共生サイトとして国に認めてもらう必要があります。ただし、環境省の考え方は柔軟で、認定が困難なものとならないようにする配慮があり、この目標の根底には、生物多様性の保全を志す企業や民間団体を積極的に応援していこうとする姿勢があります。高知県でも自然共生サイトの認定に向けた動きを活発化していく工夫が求められています。

悲観的なことばかりではありません。この 10 年間に生物多様性こうち戦略がもたらした成果も見え始めました。“生物多様性こうち戦略推進リーダー”の登録者数は、目標の 100 名を超えました。その中には生物多様性の保全活動を強力に推進しているリーダーもたくさんおられます。そのような団体や個人を顕彰し、その活動を広く県民に知ってもらうために、「生物多様性こうちプラン大賞」を新設し、交流も兼ねた選考会を毎年行っています。それぞれの活動が広く県民に認知され、ますます発展するようなさらなる工夫と対策が必要ですが、この改定版でも優れた活動の例を紹介していますので、ぜひ目を通していただきたいと思います。ほかの活動についても広く知りたい人は、「環境活動支援センタ

一えこらぼ」のホームページなどをご覧ください。自分が興味を持って主体的に取り組めそうな活動が見つかるかもしれません。

今回改定された戦略は、基本的には前戦略の内容を引き継いでいますが、全体の構成を大きく変えました。生物多様性の認知度も高まりましたので、「第1部計画編」として、最初に戦略策定の基本事項、高知県における評価と課題、行動計画、推進に関わる内容を述べ、まずこの戦略の目的と内容を理解してもらうようにしました。前戦略では最初に記していた高知の自然、生きもの、人の暮らしは「第2部現況編」としてまとめました。また、今回の改定版でも“生物多様性こうち戦略推進リーダー”が使用できるテキストとしての機能も付加させようという意図で、生物多様性に関わる基本的事項の詳しい内容や国家戦略の新しい方針・考え方などを書き加えました。

この「2024改定版」は、これからの10年間を当面の計画期間とし、社会情勢の変化などを考慮するため、原則として5年目に戦略の見直しを行い、目標達成に向けてより実効性の高い取組を進めていくこととなっています。つまり、今後5年間の高知県の生物多様性保全を推進するための道標となるものといえます。今までにも増して、関係する皆様のみならず、広く高知県民の皆様のさらなるご協力をお願いしたいと思います。

高知県環境審議会 自然環境部会

はじめに

第1部【計画編】

第1章 戦略改定の基本事項	3
1-1 生物多様性とは	5
1-1-1 3つのレベルの多様性	5
1-1-2 生物多様性の恵み（生態系サービス）	7
1-1-3 生きものが豊かである必要性	9
1-2 生物多様性の危機	11
1-2-1 4つの危機	11
1-2-2 進行する生物多様性の損失	14
1-2-3 生物多様性ホットスポット	15
1-3 戦略改定の背景と意義	16
1-3-1 国内外の動向	16
1-3-2 生物多様性国家戦略	20
1-3-3 持続可能な開発目標（SDGs）	21
1-3-4 戦略改定の意義	24
第2章 高知県における生物多様性の評価と今後の課題	27
2-1 高知県の生物多様性の評価	29
2-1-1 本県生物多様性の傾向	30
2-1-2 本県動植物の動向	30
2-2 各エリアの評価と課題	32
2-2-1 森（山）	32
2-2-2 川	32
2-2-3 里	33
2-2-4 海	33
2-2-5 まち	34
2-3 4つの危機に対する高知県の課題	35
2-4 横断的な課題	39
2-5 10年間に発現した生物多様性保全に資する地域の取組	46
2-5-1 豊かな里山次代へつなげ！ ～高知市久重地域の取組～	46
2-5-2 ぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる ～NPO 法人大月地域資源活用協議会～	49
2-5-3 人の命も生きものの命も大切に！ 生物多様性の宝庫、ジンデ池を守る活動 ～ジンデ池生物研究所～	52
第3章 こうち戦略行動計画	57
3-1 戦略の理念	59
3-2 将来目標と計画期間	60
3-3 行動計画	63
3-3-1 目標の達成状況	63
3-3-2 行動計画	65
3-3-3 県民をはじめとする各主体の取組	81
第4章 戦略の推進	85
4-1 各主体の役割	87
4-1-1 実施主体	87
4-1-2 中間支援	88
4-2 推進体制	89
4-3 進捗管理	90

第2部【現況編】

第1章 高知の自然	93
1-1 地勢・気象・植生	95
1-1-1 地勢	95
1-1-2 気象	97
1-1-3 植生	99
1-1-4 高知県の潜在的な自然環境の特徴	101
1-2 エリアの特性	103
1-2-1 森（奥山）	103
1-2-2 川	106
1-2-3 里	115
1-2-4 海	120
1-2-5 まち	126
1-3 森-川-里-海のつながり	129
第2章 高知の生きもの	133
2-1 森の生きもの	135
2-1-1 植物	135
2-1-2 動物	136
2-2 川の生きもの	139
2-2-1 溪畔林・河畔林	139
2-2-2 藻類・海草類	139
2-2-3 貝類	141
2-2-4 十脚甲殻類	142
2-2-5 魚類	143
2-2-6 両生類・爬虫類	146
2-2-7 鳥類	147
2-3 里の生きもの	148
2-3-1 植物	148
2-3-2 動物	149
2-4 海の生きもの	152
2-4-1 海岸植生	152
2-4-2 海藻類	153
2-4-3 サンゴ類	154
2-4-4 貝類	155
2-4-5 十脚甲殻類	156
2-4-6 魚類	157
2-4-7 爬虫類	158
2-4-8 鳥類	160
2-4-9 鯨類	160
2-5 まちの生きもの	162
2-5-1 植物	162
2-5-2 動物	163
第3章 高知の人の暮らし	165
3-1 高知県の農山漁村の現況と自然との関わり	167
3-1-1 農山漁村の現況	167
3-1-2 自然との関わり	171

3-2 生業（なりわい）	173
3-2-1 農業	173
3-2-2 林業	176
3-2-3 水産業	179
3-2-4 観光	183
3-2-5 伝統的な産業	185
3-3 伝統文化	188
3-3-1 食文化	188
3-3-2 祭祀など地域の伝統文化	189
 参考・引用文献	 192
 参考資料	 198
1 生物多様性こうち戦略改定の体制及び経緯	198
2 写真提供者	199
3 生物多様性の保全に関わる法律	200
4 用語集	201
 コラム	 43
1 高知の貴重な標本を守ろう！	43
2 物部川の河川環境改善に向けて ～濁水対策から流域治水へ～	114
3 地域と畑は自分たちで守る！ ～くまもと☆農家ハンターの取組～	119
4 ツキノワグマが生息する世界で一番小さな島 ～四国のツキノワグマの絶滅回避に向けて～	138
5 食卓から消える四万十産スジアオノリとヒトエグサ ～冬の風物詩と地場産業の危機～	141
6 放流しても魚はふえない！？ ～川の豊かさを考える～	145
7 高知県中山間地域再興ビジョン	170
8 防災と地域の生物多様性保全 ～足元の植物を守る意味～	172

